



2012年(平成24年)8月31日 金曜日

26

日刊工業新聞に弊社開発機械の記事が掲載されました。

日刊工業新聞 2012年8月31日(金) 26面に、「1台で混練と合成樹脂成形」というタイトルで記事が掲載されました。当社で特許取得開発したP.B.S.型連続高混練単軸押出機の機能・特徴・価格帯・製品製造におけるコストダウン化・今後の販売計画・展開などについて紹介されました。

日刊工業新聞社の『テラス』欄に弊社の社長コメントが紹介されました。

日刊工業新聞 2012年9月11日(火)の25面コラム「テラス」欄にP.B.S.型連続高混練単軸押出機の開発経緯、開発にご支援頂いた方々への感謝の気持ち、営業活動での悩みなどについて掲載されました。

大阪産業創造館「機能性フィルム展」弊社ブースに御来展頂き、誠にありがとうございました。

2012年8月3日(金)大阪産業創造館にて開催されました「機能性フィルム展」弊社ブースへ、多数の企業様に御来展頂き、おかげさまをもちまして、大盛況にて終わることができました。心よりお礼申し上げます。

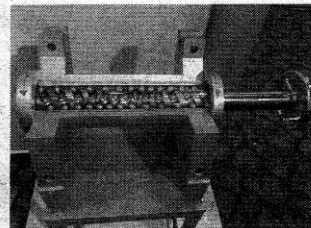
編集後記：

皆様の御役に成ります様、常時新技術に挑戦し、装置の開発に努めて参ります所存です、御支援の事宜しくお願い致します。

1台で混練と合成樹脂成形

コニー・ケンが開発

コニー・ケン(大阪市鶴見区磯山早苗社長、06・6911・3900)は、機能性フィルム用の原料などを単軸の押



出機で混練できる「P.B.S.型連続高混練単軸押出機」を開発した。1台の機械で原料の混練と異形成形が可能になり、低コストで合成樹脂が一貫成形できる。価格は1500万~2000万円。リサイクル関連製品を扱

う業界などにも売り込み、年間10台の受注を目標とする。原料を混ぜるシャフトのスクリー径は20ミリのスクリーン間で受注生産する。混練能力は炭酸カルシウムや滑石の粉であるタルクなどの場合、スクリー径が150ミリの1時間当たり500キログラム。化粧品やトナーも高混練できるという。従来は原料を2軸押出機で混ぜ合わせ、その工程でできたコンパウンド品を単軸押出機に入れる必要があった。

腰を据えて

▽：「開発に15年かかった」と大きく息をついたのは、産業用機械を手がけるコニー・ケン(大阪



磯山さん

営業活動にも力を注ぐが、目下の悩みの種は「構造を

▽：「成果が実ったの

え。

は、異形成形のスペシャリストの先生に教えを請い、大阪府の職員の方にもアドバイスをいただきたいから」と各方面からの後方支援に感謝する。▽：今後は



コニー・ケン株式会社

大阪市鶴見区茨田大宮 2-2-46

TEL：06-6911-3900

isoyama@extruder.jp